

# 学生の授業評価アンケートの集計

宮本敬子（社会学研究科博士後期課程）

---

## 設問 1

今回、哲学書などさまざまな著作の中からテキストを選択してもらいましたが、指定されたテキストについてどのように思いましたか？ 今後もこのような著作の読解に取り組みたいと思いますか？

- どれも聞いたことのある著名な文献ばかりで、読んでおきたいと思いつながらなかなか読む機会のなかったものでした。古典も多く含まれていて難しそうに感じましたが、大学に在るうちにそうした文献の精読をじっくりして、なんらかの糧にしたいと思い受講しました。分量の多いものから少ないものまで用意されていて、受講者の都合や興味にあわせて選ぶことができよかったです。『共産党宣言』を読むことで、マルクスの他の文献も読んでいきたいと思えました。今後も、このような著作の読解に取り組みたいです。
- 著作を通して伝えたいメッセージ自体は、考えさせられる内容があつて面白かったです。ただ、言葉の使い方の厳密さ、文章の硬さなど、そのメッセージを正確に読み取ることが重視される点においては正直大変だなあという思いがしました。自分はずっと感覚的に考えることが好きなようなので、ソフィーの世界のような入門書の方がじっくり来ると思いました。しかし今後もっと厳密に追及したいという思いが出てきた場合には、気合を入れて読もうと思います。
- 難解なテキストを読むのは、ほとんど初めてだったので、ひとつの箇所について2、3日通して考え、筋の通った解釈に結びつけるという訓練ができたのは喜ばしい経験でした。一方で、まとまった分量を読みこなすには時間が足りなかったことも事実です。今後もこうした類のテキストにチャレンジしていきたいですが、次は時間的な制限がない中で取り組んでみたいです。
- 前から古典に触れてみたかったので、とても有意義でした。今後も哲学書を読んでいきたいです。
- 難しかったが、すごく良い機会になった。今後このような著作の読解を続けてほしい。

個人では難しいが、少し敷居が低くなった。

- 自分の問題関心から選ぶことができた。前回の課題よりは、学部生の身の丈にあっていたように思った。分量や難易度、課された課題は適当であると思った。学部3年の後期は忙しかったが、在学中には可能な限り取り組むべきことだと思うので、挑戦したい。
- この講義の履修者ではないので指定のテキストには取り組んでいない。ただ、受講者の報告で紹介された『永遠平和のために』や『共産党宣言』は、今後自分で読んでみたい。
- 難解だと感じたが、その方が調べるべきことも多く、ためになると思った。今後も取り組みたいと思える内容であった。
- 私はカントの『永遠平和のために』を読んだのですが、これを読むのは初めてでした。カントの著作にしては比較的読み易いな、などと思いながら読んだのですが、永遠平和の理念が自然によって要請されると述べられている第1補説の部分について、これは神学的とみるべきなのか、それとも自然構造によって規定されているというふうに（現代的に）読んでもよいのか、あるいは更にそれを越えた所にあるのかなど、興味のつきないテキストでした。

## 設問2

RAによる指導に関する満足度をお聞かせください。またその理由をお書きください。

満足	6人
やや満足	3人
普通	0人
やや不満足	0人
不満足	0人

- 作成中のレポートに対して、的確なアドバイスをしてもらえたと思います。引用の仕方や註の付け方など参考になりました。自分の問題意識にばかりとらわれて、選択した文献よりも参考文献の興味のある部分を取りあげるような形式で文章をまとめてしまった時には、きちんと方向修正のできる助言をいただきました。励みになるお言葉もいただき、そのおかげで最後まで高いモチベーションで課題に取り組むことができたと思います。もっと、私自身に時間がつくれればきっとRAの方から、もっといろいろなことが学べたと思います。冬学期は忙しくてせっかくのRAのシステムを最大限に活かせなかったと思うので、その点は心残りです。

- はじめにお断りしておくと、今回の演習では私の勝手な都合により RA と満足にコミュニケーションをとることができませんでした。それにも関わらず、最後までご指導いただき、テキストの内容からレポートの構成まで幅広く教えていただいたことに、本当に感謝しています。とくに、大学院生としての論文執筆経験を活かしたレポートの構成方法のご指導は、非常に説得力のあるわかりやすいものでした。
- わかりやすく丁寧な説明をしてくださったことや、スケジュールの忙しさなど個人個人の都合や事情を配慮して、それに合わせる形で指導してくださったので、無理なく自分のレベルに合わせて学ぶことができました。自分だけで参加している授業よりも、「ちゃんとやらなきゃ」という責任意識も高まって、やる気を持って授業も参加できたのでよかったですと思います。
- 進捗について逐一気にしてくれたので助かりました。また、こちらの勝手な都合も受け入れていただいたので本当に感謝しています。
- すごく丁寧に接してくれた。と同時にメールの返信に数日かかることもあり、その点で少し焦ってしまった。
- 自分のペースに合わせていただけた。報告が遅れてしまいがちだったが、丁寧にアドバイスをいただけた。RA の指導は受講者のやる気や時間の余裕に大きく左右されてしまうということは大きいと思います。自戒をこめて言うと、内容に関して、踏み込んだアドバイスがもっとあれば、「やらなくてはいけない」と学生が焦るのかも知れないと思いました。
- 執筆中の卒業論文に目を通してもらい、助言をいただいた。細かい書式の点から、内容に関する厳しい指摘まで、多岐にわたって指導していただけたので、大規模な文章を初めて作成する自分としては、非常に助かった。また、修士課程・博士課程の過ごし方について、体験談を交えて詳細に教えていただいたので、来年度からはこれを参考としたいと思う。
- 多くの時間と労力を割いて指導にあたってくれたので。
- 勉強会を開いてくださり、またレポートについての相談なども気軽に聞いていただけました。

### 設問 3

今回のような、教官による講義と RA による論文指導を組み合わせた授業が来年度以降も開講されることを希望しますか？ またその理由をお書きください(後輩に勧められるかどうか、という観点でお答えください)

希望する	9人
どちらともいえない	0人
希望しない	0人

- 自分が難しく思ってなかなか手をだせない文献に向き合ういい機会だと思います。選択した文献を精読して内容を理解することで、その著者が何を考えていたのかに触れ、自分自身の世界の見方も広げられたと思います。それを通して考えられる物事も増えますし、そうして他の物事を考えるときのいい思考実験の材料になると思います。後輩の方も、こういう機会を活かして、古典を読破する達成感や、ものを見るときに観点が広がっていくワクワクする感覚を味わってほしいと思います。
- 難しい哲学書に一度はチャレンジしてみたいと思っている学生は割と多いように感じます。そうした学生のためにも RA の方たちによるサポートを受けながら難解なテキストに取り組む機会を提供し続けるべきだと思います。
- 学生を放任しすぎて、自分で考えなくても暗記するだけで単位が取れるような授業も多いので、このように知識を覚えるだけでない授業は貴重だと思います。また、哲学についても難解すぎる内容をただ一方的に講義するといったものや、広範囲のことを取り扱すぎて何を学んだのかが心に残らない授業も多いのですが、この授業のように、伝えたい部分の的を絞って、ゆっくり丁寧に噛み砕いて説明してくれる授業は分かりやすく、何を学んだのかが残るので良かったと思います。
- 哲学書はとても難しいので、こうした丁寧な指導があるととても助かります。分量も、他の授業と折り合いがつく程度なので良かったです。ただし、これ以上分量が増えると、正直キツイです。
- このような機会を持つことで自身もやらなければならない強迫観念に駆られるし、結果として深く考えるよい機会になる。(無理を承知で) いっそのこと必修科目にしてしまえばよいと思った。
- 一方的な講義を聴くだけでは何も身に付かないと思うため。他の授業に比べて達成感があるし、力もつくと思います。講義に物足りない後輩にはお勧めです。課題の量や難易度を下げて、RA と双方向性をもっと取れるようにできても良いのかもしれない。隔週のワークショップなど、準備不足でも議論を進められる仕組みを作る。先生の講義はとても勉強になった。
- 3年次の冬学期に履修した同様の授業(ドイツ研究入門Ⅱ、藤野寛先生)での経験が、

卒論の作成に大いに活かされている。文献の探し方などの技術的な面は、その時に TA を担当された成田さんに一から教えていただいた。また、大きいレポートを3年次に書いておくことは、卒論へのひとつのステップとして意味があったと思う。4年生になる前にこのような授業を受けておくことは、後々のためになることであると思う。また、壇上へ上がって報告をする機会はほとんどないため、これを体験する場があることは受講生にとって良いことであろう。

- 講義のみではなかなか分からないことも指導が得られる、よい機会だと思うので。
- このようなテーマの講義はゼミナール形式が相応しいと思うが、RAの方のほうが、教官よりも学生から意見がしやすいので、よりよい形式ではないか。

#### 設問4

今回の取り組み全体についての感想を述べてください。

• もっと時間にゆとりのある時に受講すればよかったです。古典を読むときに RA の方がついてくださるといふ非常にありがたいシステムなので、そのシステムを十分に活用できる学年でとればよかったですと思いました。(2年生の時のほうが暇だったので)。しかし、私の選んだ文献は比較的短いもので、なんとか RA の方のアドバイスや励ましを受けて課題をこなすことができました。レポートを書きあげたときは、本当にいい達成感を味わうことができたように思います。その一方で、もっと参考文献の内容も理解できていれば、もっと内容の濃いレポートができたかもしれないとくやしい気持ちも残りました。でも、『共産党宣言』というテキストの精読は徹底できたので、それは満足です。授業中に発表する機会にも恵まれ、発表のためのレジメを作成したり、発表の原稿を考えたりと試行錯誤の連続でした。発表後に他の受講生や RA の方から質問をしていただけたことで、自分がまだまだ勉強不足で、これからもっと頑張らなければいけないと痛感させられました。また、他の受講生の方の発表は、内容の濃いもので、自分の発表の拙さも実感しました。こうした感想をもてたことで、「もっと勉強していかなくては！」という気持ちになり、次なる精進につながる機会だったと思います。マルクスが共産党宣言で何を考えていたのかを知ったことで、自分が物事を考えるときのいい材料が増えたように思います。こういうふうに、昔の偉人たちの思想にふれて、もっとさまざまな観点から物事を考えられるようになりたいと思いました。

- 専攻している経営学以上に、哲学における言葉の意味の掴み取り方の難しさや使い方

の厳密さに驚いたのですが、それでもすごく丁寧に分かりやすく指導してくださって、「学生が何か得るものがあるような授業にしたい」という平子先生やRAの方々の熱意と真心を感じました。講義を受けてみて、思っていたほどにはシビアでなかったのですが、多くの学生が途中でやめてしまったのはもったいないと思いました。学生の意識を高める必要もあると思うのですが、せっかく良い授業なので「やる気のある人だけ」ということを強調しすぎて、「授業はおもしろいから聞いていたいけどレポートとか厳しそうだしやめようかな」といった理由から途中でやめてしまう人がいるのではないかと思います。やはりもったいないかなと思います。個人的には、国家というものや今後世界が向かうべき方向についての良いヒントを得られ、とても満足しています。ありがとうございました。

- 各課題テキストについて講義の中でもっと具体的に触れてもらえると（何か所か引用して先生方の解釈を示す、など）、学生の読解作業の助けになっていいのではと思います。そうすれば、講義＝演習連結型の授業としてもうまく機能するのではないのでしょうか。

- 就職活動のため、100%の力は発揮できませんでしたが、できる範囲で一生懸命取り組みましたと思います。

- 正確に把握しきれたとは思えない。ただ、素晴らしい思想を持った人がいると思うと感動した。

- ゼミや就職活動で忙しくなってしまう、あまり力を出せたとは思わなかったが、RAの方が自分のペースに合わせてくれたため、とても助かった。ありがとうございました。

- 今回は平子先生のご厚意により、聴講生であるにもかかわらず、講義と関連しない私の卒論を指導していただけることになった。平子先生および指導を担当していただいた宮本さんには感謝したい。今回のようなケースは稀かもしれないが、自分の文章をRAに読んでもらい、細部に至るまでコメントをしてもらおうということは、卒論に限らず、自分の文章作成能力一般に間違いなく寄与するであろうと思われる。いわば「飛び入り参加」である私の文章に対して、宮本さんは原典に当たって引用の仕方のまずさを指摘したり、マルク・ブロックの著書を持参して別の観点を提示したりと、かなりの労力を割いたことと思う。この経験を今後の院生生活で活かすことが、私の責務であろう。

- 小論文の書き方や、著作への取り組み方など、総合的に学べる役に立つ授業であったと思います。